

ある日の育児日記から

(84)

佐藤 和代



ある日、有が突然言い出しました。「ゆうねー、ゆうって名前、やめた。えっ、だって、やめてどうするの?」「違う名前がいい」何ていう名前ならいいの?」「しんいち」。

うーん、何を考えているんだか。そして次の日、「ゆうねー、さとうって名前もやめたよ」。あのね、名前って、勝手にやめたりつけたりできないのよ。と説明してみますが、馬の耳に念仏、五歳児の耳に社会常識…。

この状態はしばらく続き、「ゆうくん」と呼び掛けると「違うでしょ、しんいちでしょ」と言う

始末です。二歳のころは、何でも「自分でする」と言って困らせたものだけど、やっとないていのことは自分でさせても大丈夫、となったらこれだわ。

有はとにかく「自分でする」と言いつづらなことが多く、まは今でも洋服を選ぶとき「お母さん選んで」なのに、有は私が出した服は決して着ない。もう一度自分でたんすから出します。(忙しい朝のけんかのモト!)ま、自立心の表れだから…。と無理やり納得して、しばらく「しんいち」につきあいますか。でもねー、近所の人に「ぼくはしんいちって名前になりました」なんてふれまわったらどうしよう。



まが親の本棚に進入!
ヤバイ本はかくさねば。